



▲湯沢古城之図

# ゆざわの文化財

ゆざわこじょうのず ゆざわじょうし  
「湯沢古城之図」と「湯沢城址」

問 生涯学習課文化財保護室 (☎ 55-8193)

市教育委員会は、令和5年3月2日付で「湯沢古城之図」を新たに市指定有形文化財（歴史資料）に指定しました。

「湯沢古城之図」は、天保十年（1839）に佐藤平右衛門によって湯沢城とその周辺が描かれた絵図を、明治24年（1891）に芳賀勝縁が書き写したものです。

湯沢城の本丸や二の丸、堀切などの山城の地形が間数とともに示されており、平場は薄く、斜面には濃い色を塗ることで起伏が表現されています。寺や神社、給人町、湯沢大堰など、天保期における湯沢城下のまちなみとともに、城郭を立体的にみる事が出来ます。

絵図に描かれている湯沢城は、鎌倉時代後期、小野寺氏によって稲庭城の支城として築かれた山城です。慶長七年（1602）に佐竹南家三代義種が城代として入城した後、一国一城令により元和六年（1620）に破却され、その城跡は「湯沢城址」として市指定史跡に指定されています。

湯沢市の歴史の中で欠かすことのできない湯沢城址ですが、現存する資料は多くありません。天保期のまちなみや城郭を知ることが出来る「湯沢古城之図」は、市にとって大変貴重な史料です。

## 『佐竹南家御日記』

第15巻発刊のお知らせ

「佐竹南家御日記」の翻刻本第15巻が発刊されました。

「佐竹南家御日記」は、湯沢の所預であった佐竹南家の御用座において天和二年（1682）から慶応四年（1868）まで書き継がれた公用日記で、地方武士の暮らしや農業、商業、交通、宗教、気象などが詳細に記され、当時の社会事情を知る貴重な近世史料です。

本書は、天明三年（1783）から寛政元年（1789）までの7年分を収録しました（天明二年は欠巻）。天明の飢饉の様子や浅間山（群馬・長野の県境に位置する火山）の火山灰が市内にも降った様子などが記されています。

■頒布価格…5千円（税込み）

※送料無料

※全文のPDFが入ったCD・RO

Mが付きます。



お子さんの写真（電子データ）をメールでお送りいただいた方に、表紙の写真差し替えた「広報ゆざわコネクト」をプレゼントします。

■対象 1歳になるまでの赤ちゃん

※申込みは、メール本文に「氏名」「住所」「電話番号」「お子さんの名前・生年月日」「メッセージ（希望者のみ）」「必要部数（10部以内）」「希望する発行号」を記入し、写真を添付してください。

※写真データは1メガバイト以上のものを推奨します。

問 ふるさと未来創造部情報政策課元気・魅力発信班 (☎ 56-8387 ☒ koho@city.yuzawa.lg.jp)

あなただけの  
広報ゆざわ  
コネクト